

## 福知山市商工会 企業業況調査

令和3年4月調査結果(令和3年1月~3月分 調査対象 80件) (令和3年5月 日公表)

### ■景況感

	今回調査数	現状		先行3ヶ月		先行1年		
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	
全体	80	30.0	27.6	27.2	25.0	33.8	26.3	
地域別	三和	16	29.7	26.6	25.0	26.6	34.4	28.1
	夜久野	28	27.9	26.0	25.0	22.1	24.0	21.2
	大江	36	32.6	29.4	29.9	26.5	40.3	29.4
業種別	製造業	24	33.3	31.8	34.4	29.5	44.8	29.5
	建設業	22	38.6	35.5	30.7	30.3	34.1	21.1
	卸小売業	11	18.2	16.7	13.6	22.2	29.5	30.6
	サービス業	23	23.9	21.0	22.8	17.0	23.9	26.0

#### 景況感DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出  
 良い+1.0、やや良い+0.75、どちらともいえない+0.5、やや悪い+0.25、悪い+0.0  
 (すべてが「どちらともいえない」と回答した場合、DIは「50.0」)

現状は、景況感DIは30.0と前回調査より2.4ポイントのプラスとなった。地域別では、三和が2.1ポイント、夜久野が1.9ポイント、大江が3.2ポイントのプラスになっている。業種別では製造業は1.5ポイント、建設業は3.1ポイント、卸小売業で1.5ポイント、サービス業が2.9ポイントのプラスとなっている。地域別では三和3.1ポイント、夜久野1.9ポイント、大江3.2ポイントプラスと改善している。業種別では、全業種プラスと改善傾向ではある。

先行調査では、先行3ヶ月が2.2ポイントのプラス、先行1年が5.5ポイントのプラスと改善の兆しがみられる。業種別に見ると、先行3ヶ月では卸小売業を除いた3業種で0.4~5.8ポイントのプラス、先行1年では卸小売業が1.1ポイント、サービス業が2.1ポイントマイナスであるが、製造業と建設業においてはそれぞれ15.3ポイント、12ポイントのプラスと、コロナ禍からの景気回復は二極化の様相が強まっており、外出自粛などの影響を受けやすい卸小売業、サービス業は消費の回復がどこまで進むかも不透明な状況である。

### ■経営動向

#### ○製造業・建設業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
引合			-28.9	-42.9	-31.1	-21.4
売上			-32.6	-50.0	-23.9	-28.6
採算	-13.6	-7.1	-39.5	-38.1	-32.6	-28.6
資金繰り	-15.9	-11.9				
業況	-34.1	-31				

#### 経営動向DIの算出方法

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出

(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

(製造業・建設業)グループと、(卸小売業・サービス業)グループに分類して集計をしている。

#### ○卸小売業・サービス業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
売上			-41.2	-67.6	-41.2	-66.7
客数			-54.5	-79.4	-43.8	-72.7
客単価			-22.6	-52.9	-23.3	-45.5
採算	-25.0	-41.2				
資金繰り	-31.3	-52.9				
業況	-59.4	-61.8				

### ★今期の経営動向

製造業・建設業においては、すべてにおいてマイナスとなっている。採算が6.5ポイント、資金繰りが4ポイント、業況が3.1ポイントのマイナスとなっている。

卸小売業・サービス業においは、全ての項目でプラスとなっている。特に採算及び資金繰りにおいはそれぞれ16.2ポイント、21.6ポイントのプラスと改善幅が大きくなっている。

★前年同期比、前期比

製造業・建設業においては、前年同期比では、引合が14ポイントのプラス、売上が17.4ポイントのプラス改善が見られる。採算面では1.4ポイントのマイナスという状況。前期比においては、引合が9.7ポイントのマイナス、売上は4.7ポイントのプラス、採算は4ポイントのマイナスとなっている。

卸小売業・サービス業については、前年同期比では、引合、売上、採算のすべてで改善が見られる。特に客単価は30.3ポイントプラスと大幅に改善している。

前期比についても、引合、売上、採算のすべてで改善が見られる。

■今期直面している経営上の問題点（業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は選択された数)

	製造業(51)	建設業(47)	卸小売業(15)	サービス業(60)
1位	需要の停滞(-) 16.1%	仕入単価の上昇(-) 18.4%	競争の激化(3) 23.8%	設備の老朽化(4) 19.7%
2位	従業員の確保難(1) 12.5%	従業員の確保難(-) 16.3%	消費者ニーズの変化(-) 19.0%	仕入単価上昇(-) 16.4%
3位	設備の老朽化(5) 12.5%	需要の停滞(-) 14.3%	仕入単価上昇(5) 9.5%	需要の停滞(-) 16.4%
4位	消費者ニーズの変化(-) 10.7%	消費者ニーズの変化(4) 8.2%	販売価格の低下(-) 9.5%	消費者ニーズの変化(-) 8.2%
5位	人件費の増加(-) 8.9%	経費の増加(-) 8.2%	従業員の確保難(-) 9.5%	人件費の増加(3) 8.2%

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、第1四半期(昨年4月～7月)以降事業資金関係での問題点が上位を占める状況が続いていたが、今期においては需要の停滞や競争激化など販売面における経営上の問題点が表れている。業種別に見ると、製造業では、前回前々回とトップであった、従業員の確保難が2位となり、需要の停滞がトップにくる、建設業では、トップに仕入単価の上昇があがり、従業員の確保難、需要の停滞が入ってきた。卸小売業では、前回3位、前々回2位の競争の激化がトップとなり、2位の消費者ニーズの変化、4位の販売価格の低下と販売面での厳しさが増してきている。サービス業においても、仕入単価の上昇や需要の停滞といった販売面での問題点が浮上している。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。

次回は令和3年4月～6月の状況について、令和3年7月に調査する予定です。商工会の支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。